

## 第1回 住民がつくるおしゃれなまち研究会 議事概要

日 時：2017年10月2日（月）15:00～17:00

場 所：日本都市センター会館6階 604会議室

出席者：【委員】卯月盛夫 座長（早稲田大学）、岡田智秀 委員（日本大学）、田中里沙 委員（事業構想大学院大学）、福井恒明 委員（法政大学）、牧瀬稔 委員（関東学院大学）、梶山浩 委員（戸田市）、石川義憲 委員（日本都市センター）

【事務局】川上担当課長、長谷川副主幹（戸田市）

池田副室長、高野研究員、瀧澤研究員、千葉研究員（日本都市センター）

### 議事要旨

- ・研究の経緯及び戸田市の紹介
- ・座長、委員及び事務局の紹介
- ・調査研究に関する議論
- ・アンケート調査に関する議論

### 1 調査研究に関する議論

#### (1) 戸田市について

- ・今まで工業・産業中心であった戸田市は、今後、「住」や「商」という方向に土地利用が転換されていくだろう。そういった将来の土地利用を見据えながら、景観計画の改定を考えていく必要がある。
- ・戸田市の人口分布について、14歳未満と35～49歳が他の世代に比べ人口増加が少なく、減少している年もある。おしゃれを誰が享受するのかといったときに、ファミリー層が抜けているため、郊外都市としてはファミリー層の強化が必要でないか。
- ・戸田市役所内では、「おしゃれなまちを目指す」というのはまだまだ浸透しておらず、職員にも認知されていない。
- ・戸田市の顔であり玄関口でもある市内3駅周辺が、おしゃれと逆行している印象を受ける。また、景観重点地区に指定されているわけでもない。駅は不特定多数が行き来し、視線の集中する場所であるため、駅を含めた周辺の景観イメージを確立してはどうか。
- ・戸田市は高低差がなく平坦なまちである。そのため、自転車での移動がしやすいという利点があり、彩湖・道満グリーンパークはサイクリングコースとして休日に多く利用されている。
- ・戸田市の資源として、1964年の東京オリンピックでボート競技を行った戸田漕艇場が挙げられる。ボートの聖地として市内外に情報発信をしていくことで、新たな層をターゲットとした憩いの場を創出する仕掛けとなるか。

#### (2) おしゃれなまちづくりに関する議論

- ・おしゃれについて、戸田市が自治体の先進事例となれるような研究にしていきたい。おしゃれはそもそも定義されているものではないため、戸田市の価値観で「戸田市流おしゃれ」を定義

できれば良いのではないか。

- ・現地調査の候補地としては、大阪市の水都大阪、広島市の京橋 R-Win（リバーウィン）が挙げられる。両自治体とも協議会を設置し、民間の力も使っているところが戸田市にも参考になるのではないか。
- ・景観まちづくりでは取り上げることが少ない、住民のライフスタイル等といった生活の背景となるものを研究会で扱えたら良いのではないか。
- ・ドイツのサイクリングロードでは、川べりが一番人気である。景観の良さもあるが、風を感じることが重要である。川べりのカフェが情報交換や自転車部品提供の場になっており、EUも推進している。
- ・サイクリングの利用者が集う憩いの場を市内に複数提供していくのはどうか。そこでは飲食ができ、水面を見下ろせるなど戸田市らしさを感じられる仕組みを作っていく。

## 2 アンケート調査に関する議論

- ・今年度中に戸田市民向けの意識調査アンケートを実施する予定である。
- ・研究のキーワードは「おしゃれ」「シビックプライド」「住民参加」であるが、アンケートではおしゃれに限定して調査していくのがいいのではないか。質問項目が多すぎると回答率も下がる。
- ・戸田市流おしゃれを探るための調査に絞り、戸田の好きなところを市民の言葉で回答してもらえたと、おしゃれの要素・資源を浮き彫りにできるのではないか。
- ・戸田市がおしゃれを目指している、まちをおしゃれにしていく姿勢を市民に示せるように、アンケートの説明や設問で伝わるようにしたい。
- ・戸田市に住んでいる人の生活パターンが分かるアンケートにしたい。平日は東京に出て行き、夜だけ戸田市にいるのか。その人たちは、休日は何をしているのか。あるいは子育て世代は、どこまで買い物に出て行くのかなど。
- ・その他のアンケート調査として、戸田市職員向けや全国 814 市区を対象として実施することも可能である。

## 3 今後の予定

- ・第 2 回研究会は、12 月 22 日に開催予定である。東京理科大学工学部建築学科 伊藤香織教授に、シビックプライドをテーマとしてご講演いただき、意見交換を行う。
- ・第 2 回研究会の前に、研究会委員による戸田市内視察を実施し、戸田市の水辺を実際に見て回る予定である。
- ・年度内に 4 回程度研究会を開催し、2 年間で 9 回程度研究会を開催する予定である。
- ・必要に応じて外部からゲストスピーカーを招聘し、問題提起を行ってもらう。
- ・戸田市の参考となる、先進的・特徴的な施策を実施している自治体について、現地調査を実施していく。

（文責：日本都市センター）